

平成29年11月度活動報告

1. 総括

秋真っ盛りの11月もお陰様を持ちまして議員活動に邁進させて頂きました。誠に有難うございました。11月は広報広聴委員会に始まり、議員研修、決算委員会、行政視察、議会運営委員会、定例議会開会と公務が続き、あっという間に1カ月が過ぎました。議員研修では里山資本主義で著名な藻谷浩介氏に講演を頂き、これからの福井県がいかにか可能性に溢れているかを鋭い視点でご教示頂きました。敦賀市も含め生産年齢人口15-65歳は減っていき、65歳以上が増えて行く高齢化社会の流れは変わらないが、65歳以上の方の絶対数を見ますと都市部より福井県の方が大幅に少なく、生産年齢人口と逆転していく時期は早く来るという視点の中で、地元の素晴らしを(産業・技術・食等)理解し、発信して若い世代が地元から流出しないようにしなければならぬとの指摘でありました。それは正に地方議員の仕事の一つと感じ、より一層生産年齢世代が住みたい・働きたい・家族と生きて行きたい、帰ってきたいと思えるまちづくりを進める所存です。

行政視察は11月13日～15日で高知県南国市(給食完全米飯化事業)、広島県府中市(政治倫理条例)、岡山県倉敷市(美観地区、景観条例)を訪問させて頂き、ご協力のもと調査をさせて頂きました。会派で行かせて頂き、会派のメンバーが視察したい項目を確認し視察先を決めました。私は先輩方が守られてきた敦賀の街をどうやって改善して次の世代に繋げていくかという街づくりに非常に想いがありますので、特に倉敷市美観地区の視察は勉強になりました。やはり行政主導ではなく民間主導で街づくり、街の保護は進めて行く必要があります、行政は民間が行動しやすいような事業や条例を整え、必要であれば補助金を準備する形が良いと感じました。街づくりに民間が頑張れば、それを応援する市民が呼応し、大きな動きとなります。その中で経済活動が生まれていき、その利益でまた街を守っていくという好循環をいかに作れるかが重要と感じました。11月28日より定例議会が開会されております。補正予算の審査をはじめ条例案、請願等しっかりと審議して行く所存です。引き続きご指導・ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

2. 平成28年度敦賀市決算の状況について

(1) 一般会計・・・()内は前年度決算額

歳入 28,494,980 千円 (29,266,642 千円) △2.6%

歳出 26,932,837 千円 (27,651,406 千円) △2.6%

※歳入歳出差引額(形成収支)は 1,562,143 千円、形式収支から翌年度に繰り越すべき財源 177,240 千円を控除した額(実質収支)は 1,384,903 千円の黒字。

(2) 特別会計・・・()内は前年度決算額

歳入 18,583,239 千円 (18,318,818 千円) △1.4%

歳出 18,433,676 千円 (18,189,780 千円) △1.3%

※各会計(国保、下水、介護保険等)において黒字を維持。特別会計全体では形式収支 149,563 千円、形式収支から翌年度に繰り越すべき財源 1,723 千円を控除した実質収支は 147,840 千円の黒字

※敦賀市の財政運営は極めて堅実であり、しっかりと収支の均衡が保たれております。監査員からも是正改善を要する事項はないとの意見。財政力指数は 0.957 (1.0 以上だと財政に余裕あり)、将来負担比率は 9.8%であり、早期健全化基準 350.0%にはほど遠い。約 10 年前に比べれば多少は財政が悪化しているが、全国自治体、県内他自治体と比べても極めて健全な財政状況であります。時折、敦賀市の財政に悲観的なお声も聞かれますが、大変なのは行政より民間の景気です。景気を少しでも改善するためにももう少し行政として財政出動をして民間需要を作るべきと考えます。

以上